

# 同値類

## Equivalence Class

定義 1 集合  $E$  に同値関係  $\sim$  が定められているとする . このとき  $a \in E$  に対して

$$C_a = \{x \mid x \sim a, x \in E\}$$

を  $a$  を代表元 (representative) とする同値類 (equivalence class) と呼ぶ .<sup>\*1</sup>

定理 1 集合  $E$  に同値関係  $\sim$  が定められているとき , 次のことが成り立つ .

1.  $a \in C_a$
2.  $x, y \in C_a \implies x \sim y$
3.  $a \sim b \implies C_a = C_b$
4.  $a \not\sim b \implies C_a \cap C_b = \phi$

[ 証明 ]

1.  $a \sim a$  より自明 .
2.  $x, y \in C_a \implies x \sim a, y \sim a \implies x \sim a, a \sim y \implies x \sim y$
3.  $\forall x \in C_a$  について  $x \sim a$  . また  $a \sim b$  より  $x \sim b$  . よって  $x \in C_b$  . つまり  $C_a \subset C_b$  . 同様に  $C_b \subset C_a$  .  
 $\therefore C_a = C_b$
4.  $C_a \cap C_b \neq \phi$  と仮定すると ,  $\forall x \in C_a \cap C_b$  について ,  $x \in C_a$  and  $x \in C_b$  より  $x \sim a, x \sim b$  つまり  $a \sim b$  となり矛盾する .

[ 証明おわり ]

これらのことより集合  $E$  を重なることなく完全に分類することができる . この分類を同値関係  $\sim$  による類別 (classification) という . まとめると次のようになる .

定理 2 同値関係により集合  $E$  を次の性質を持つ類  $C_{a_1}, C_{a_2}, C_{a_3}, \dots, C_{a_n}$  に類別できる .

$$E = C_{a_1} \cup C_{a_2} \cup C_{a_3} \cup \dots \cup C_{a_n}, C_{a_i} \cap C_{a_j} = \phi (i \neq j), C_{a_i} \neq \phi$$

類別による類  $C_a$  の元  $a$  を類  $C_a$  の代表元と呼ぶ . また , 各類から一つずつ代表元を取り出した集合

$$\{a_1, a_2, a_3, \dots, a_n\}$$

を完全代表系 (complete system of representatives) と呼ぶ .

### 参考文献

- [1] 「ウィキペディア」 <<http://ja.wikipedia.org/wiki/>>
- [2] 石村園子 『すぐわかる代数』 (東京図書 , 2003 年)

---

<sup>\*1</sup> 同値類の記号はほかにも色々あり ,  $[a], \bar{a}, C(a)$  などと表す .